

■フィジーのAAについて

現地ホスト委員メンバーは4名で、開催までの準備と空港への出迎えや期間中の段取りをしてくれ、朝と夜にはホテルの会議室で通常のAAミーティングも開いてくれました。

また最終の日曜日の夕食パーティーではロボという地元料理(芋や鶏肉などを葉っぱに巻いて土に埋め3時間ほどそのうえで石を置いて薪を燃やして熱で蒸す)と地元のダンサーによるフィジーのダンスなどホスピタリティあふれるもてなしをしてくれました。



ここでフィジーのAAについて少し述べます。フィジーは人口約92万人で300を超える島々から成り立っていますがAAメンバーは7月現在4つに島にいて計14名です。1990年代から海外からの駐在員のAAメンバーたちがオンラインミーティングを開始して以来、現在は週に2回の対面によるミーティングと5回のZoomミーティングが開催されており、そのうちの一つは男性ミーティングです。フィジーでは文化的、社会的な要因から男性の方がよりAAに参加しづらい雰囲気があるようです。またかつてイギリス植民地だったことからインド系の方も多く、言葉も公用語の英語のほかフィジー語、ヒンディー語や島による方言もあり言語や文化、信仰も多様です。

オーストラリアとニュージーランドのAAはスポンサー国として、フィジーのAAの発展を手助けしています。今回のAOSMでもこの2か国がフィジーに財政的な支援をしました。2016年にはオーストラリアは自国の全国コンベンションをフィジーで開催し、その中でフィジー保健省やWHOの協力も得て400名規模の『AA広報デー』も開催し成功をおさめ、フィジー国内でAAの認知を高めるのに大きな役割を果たしました。2018年にはフィジーGSOも発足とホームページも開設、またメンバーのローテーションによる24時間の電話ホットラインも同年開始しています。2019年には、やはりオーストラリアの支援で香港で開催されたAOSMにフィジーは初参加し他国からGSOやサービス機構や書籍の必要性、重要性を強く感じたとのこと。なお今回のAOSMの終了翌日の月曜の午前中にも、AOSMの参加者も協力してフィジーAAが主催で『専門家向けワークショップ』が関係者15名(保健省、医師、薬剤師、司法関係者、刑務官、牧師など)を招いて開催されました。コーヒーやお菓子、昼にはランチも用意してメンバーと専門家が隣り合うような形でいくつかある円卓に座りモデルミーティングやAAの説明、Q&Aなどカジュアル

な雰囲気の中でAAを知ってもらいやり方は日本でも参考になるのではと感じました。

オーストラリア、ニュージーランドとのしっかりとした国と国とのスポンサーシップと、そしてメンバー同士のスポンサーシップや交流の中で、健全なサービス機構の土台も出来上がってきており、これから国境内外の周辺の島々にも徐々にメッセージが届き成長していくだろうと予感させられます。

お伝えしたいことはまだまだ沢山あるのですが紙面が尽きますので、ここまでといたします。

メンバーの皆様向けには来年2月の評議会での報告のほか2024年1月に2回ほどオンラインAOSM報告会もグルーディさんと企画しております。グループ発送物等にてご案内いたします。最後に2023年もゼネラルサービス活動へのご理解とJSOへの献金、そして国際協力献金へのご協力感謝いたします。2024年もよろしく願いいたします。



■関東甲信越圏ゼネラルサービスフォーラムを終えて

-+--+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*-+-*

B類常任理事 今井

2023年11月25、26日に関東甲信越圏ゼネラルサービスフォーラム(以降、GSF)が開催されました。今回の実行委員会は約80名となり昼夜を問わず打ち合わせを重ねました。当日は※300名弱のメンバーが参加し、盛況のうちに終了しました。

※:会場:180名+α、オンライン90名、スカラシップ:9名

思い返せば2019年、仲間が参加した北米の地方圏サービス集会(地域や役割を越えたサービスの分かち合い)に惹きつける魅力を実感し、日本でも開けるよう第25回評議会(2020年2月)に提案、開催が決定し、一昨年は西日本圏、昨年は東日本圏、今回の関東甲信越圏で日本の地方圏を一回りしたことになります。

日本でのフォーラムは前半にJSOや常任理事会のプレゼンを組み込み、日頃からの感謝と共にゼネラルサービスへのご理解を求めます。後半はサービスの分かち合い、今回の主なテーマは、金銭と冷霊性について伝えているか、新しい仲間へサービスの魅力をどう伝えているか、遠隔地の新しい仲間へAAの魅力は伝わって

